2026年７月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年６月12日

上場会社名　プレミアアンチエイジング株式会社　上場取引所 東
コード番号　4934　ＵＲＬ　https://www.p-antiaging.co.jp/
代表者　（役職名）代表取締役社長　（氏名）松浦　清
問合せ先責任者　（役職名）執行役員 コーポレートコミュニケーション本部長　（氏名）上原　祐香　ＴＥＬ　03-3502-2020
配当支払開始予定日　－
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　：有 （機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

１．2026年７月期第３四半期の連結業績（2025年８月１日～2026年４月30日）

（１）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年７月期第３四半期	10,591	△15.3	742	△41.4	833	△31.3	542	△28.9
2025年７月期第３四半期	12,500	△19.0	1,266	－	1,214	－	762	－

（注）包括利益　2026年７月期第３四半期　511百万円　（△33.7%）　2025年７月期第３四半期　771百万円　（－%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年７月期第３四半期	62.22	62.21
2025年７月期第３四半期	87.49	87.42

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年７月期第３四半期	10,474	7,135	67.9
2025年７月期	10,140	6,610	65.1

（参考）自己資本　2026年７月期第３四半期　7,109百万円　2025年７月期　6,598百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年７月期	－	0.00	－	0.00	0.00
2026年７月期	－	0.00	－		
2026年７月期（予想）				0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2026年７月期の連結業績予想（2025年８月１日～2026年７月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,500	△16.5	300	△51.4	300	△50.0	300	△36.4	34.40

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

新規　－社　（社名）－、除外　－社　（社名）－

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、添付資料Ｐ．８「２．四半期連結財務諸表及び主な注記（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）」をご覧ください。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無

②　①以外の会計方針の変更　：無

③　会計上の見積りの変更　：無

④　修正再表示　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年７月期３Ｑ	8,720,534株	2025年７月期	8,720,534株
②　期末自己株式数	2026年７月期３Ｑ	155株	2025年７月期	155株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2026年７月期３Ｑ	8,720,379株	2025年７月期３Ｑ	8,720,379株

※　添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料Ｐ．４「１．経営成績等の概況（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当四半期の経営成績の概況 …… 2
（２）当四半期の財政状態の概況 …… 4
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 4
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 …… 5
（１）四半期連結貸借対照表 …… 5
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 8
（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記） …… 8
（セグメント情報等の注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 9
（継続企業の前提に関する注記） …… 9
（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 9

１．経営成績等の概況

（１）当四半期の経営成績の概況

当第３四半期連結累計期間における我が国経済は、一部で足踏みもみられるものの緩やかな回復が続きました。原油高に伴う物価上昇への懸念などにより消費者マインドは悪化しているものの、政府の補助金を通じたエネルギー価格の抑制や賃金上昇を受けた実質所得の回復が消費を下支え、個人消費は緩やかに増加しています。国内化粧品市場においては、消費動向に大きな変化はみられないものの、個人消費の増加や円安によるインバウンド需要に支えられ底堅い推移となっています。

こうした状況の下、当社グループは、アンチエイジング事業においてはブランドマネジメントと各チャネルとの協働を更に強化し売上の底打ちを目指すとともに、リカバリー事業においては、パイオニアとして成長市場における更なる事業拡大を目指しております。

当第３四半期連結累計期間における売上高は、子会社の株式会社ベネクスを通じて行っているリカバリー事業の売上が順調に伸長したものの、当社で行っているアンチエイジング事業が減収となり、全体では10,591百万円（前年同期比15.3%減）となりました。営業利益は、アンチエイジング事業における新規獲得に係る広告宣伝費を中心とした販売費が計画を下回ったこと等から742百万円（前年同期比41.4%減）となり、経常利益は833百万円（前年同期比31.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は542百万円（前年同期比28.9%減）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

アンチエイジング事業

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2024年８月１日 至　2025年4月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2025年８月１日 至　2026年4月30日）	前年同期比 （%）
売上高	10,257	8,063	△21.4
営業利益	1,099	890	△19.0

売上高

アンチエイジング事業の売上高は、8,063百万円（前年同期比21.4%減）となりました。

チャネル別では、リニューアルした「デュオ」の販売が堅調に推移している卸売販売の売上高は底堅い推移となったものの、新規獲得の広告効率の改善が見られない通信販売の売上高は前年同期実績を下回りました。

通信販売は、未トライアル層へのリーチを強化し新規獲得を図るとともに、顧客単価向上・クロスセル促進に向けた新商品・限定品の投入、CRM施策の更なる拡充に努めています。当第３四半期連結累計期間においては、定期顧客の継続率向上を促進するためのプロモーション、「デュオ」のクレンジングバームのミニサイズを活用した通販新規獲得トライアルキャンペーン、スキンケア商品３品をセットにした通販新規獲得トライアルセットオファー等を展開し一定の成果を挙げていますが、新規獲得の減少を補うには至らず売上の減少が続いています。

卸売販売は、卸売販売専用新ブランドの育成、卸売先企業との連携進化による成長力の獲得、ECモール事業の強化に努めています。当第３四半期連結累計期間においては、「デュオ」の「ザ クレンジングバーム」シリーズ５種の全面リニューアル後、「ザ クレンジングバーム ブラックリペア」の@cosmeベストコスメアワード2025 上半期新作ベストクレンジング 第１位獲得を契機とした卸売先企業との連携によるプロモーションを継続的に展開した結果、店頭での販売は堅調に推移しています。

ブランド別の状況は次の通りです。

「デュオ」ブランドは、「ザ クレンジングバーム」シリーズが８年連続クレンジングバーム売上No. 1(*1)を獲得し、2026年１月末にシリーズ累計出荷個数が6,000万個を突破しました。通販事業における新規獲得では、スキンケア商品をセットにしたトライアルセットオファーを実施し、デュオを未体験のお客様にデュオの良さを知って頂く機会を提供しています。また、2026年３月にはKAWAII LAB. 所属の７人組アイドルグループ「SWEET STEADY」との数量限定コラボ商品「ザ クレンジングバーム ブラックリペア[SWEET STEADY限定デザイン]」を全国のドン・キホーテ、TikTokショップ、Qoo10プレミアアンチエイジング公式で販売し、TikTokショップとQoo10では即日完売しました。2026年１月に本格発売した「デュオ」からの新ライン、落とす美容液「デュオ クレンズセラム ピール＆ブースト」は、@cosmeベストコスメアワード2026 上半期新作ベストクレンジング 第３位を受賞するなど、高い評価を得ています。これらの新商品も加え、引き続き、ブランド価値を訴求し浸透を図るコミュニケーションやプロモーションを実行し、通信販売事業、卸売販売事業双方における「デュオ」の売上反転に注力しております。

「カナデル」ブランドは、お客様とより深く、より長くおつきあい頂けるブランドへの進化を目指し、2026年４月に、夏の肌悩みに特化した人気商品「カナデル プレミアモイストクール」を発売し、順調な売れ行きとなっています。

「クレイエンス」ブランドについては、大人の３大髪悩みを１本でまとめてケアする「クレイスパ カラーキープ&ダメージケアマスク」をリニューアル新発売するなど、引き続き商品改良・開発等に取り組み、総合ヘアケアブランドとしての育成を図っております。

この他、肌にもリカバリービューティという発想をコンセプトとするスキンケアブランド「レインカ」から、レインカ独自の幹細胞培養エキスENGYステムS®(*2)とベネクス独自成分PHT®（Platinum Harmonized Technology: DPV576）(*3)を配合した新商品「レインカ ステムトリートメント リカバリーマスク」を発売し、2026年４月に伊勢丹新宿店と岩田屋

本店において新発売イベントを開催しました。また、卸売販売専用ブランドとして新たに投入したファスト美容医療発想を叶えるスキンケアブランド「ララスキン」、インナーケア事業のサプリメント「シントー リポソーム ビタミンC」、高濃度ビタミンCスキンケア「C+mania（シーマニア）」等のテストマーケティングも継続しております。

*1 ㈱富士経済「化粧品マーケティング要覧2026 No.1、2025 No.2、2022 No.1、2021 No.1」クレンジングバームシェア（調査対象期間：2018年～2025年金額）
*2 ヒト歯髄細胞順化培養液（整肌成分）
*3 コロイド性ダイヤモンド、白金（整肌成分）　PHTは株式会社ベネクスの日本における登録商標

営業利益
営業利益は、新規獲得に係る広告宣伝費を中心とした販売費が計画を下回ったことから、890百万円（前年同期比19.0%減）となりました。

リカバリー事業

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2024年８月１日 至　2025年4月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2025年８月１日 至　2026年4月30日）	前年同期比 （%）
売上高	2,242	2,527	12.7
営業利益又は営業損失（△）	167	△148	－

売上高
売上高は、旗艦ブランドのスタンダードドライプラスに加え、ロングセラー「コンフォートクール」をリニューアルしたリカバリークールプラスやコンフォートポンチ等が百貨店などオフラインで販売を着実に伸ばし、2,527百万円（前年同期比12.7%増）となりました。

営業利益
営業利益は、売上高の伸長に伴い売上総利益は増加したものの、ブランド認知向上や興味促進のための広告宣伝費の投下や、来期以降の事業成長を見越した採用等の組織強化を継続したことから、148百万円の営業損失（前年同期は167百万円の営業利益）となりました。

（２）当四半期の財政状態の概況

（資産）

当第３四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して333百万円増加し、10,474百万円となりました。主な増減要因は、次のとおりであります。

流動資産は、前連結会計年度末と比較して338百万円増加し、8,411百万円となりました。これは主に、現金及び預金の増加186百万円、製品の増加211百万円によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比較して４百万円減少し、2,063百万円となりました。これは主に、有形固定資産の増加17百万円、無形固定資産の減少23百万円、投資その他の資産の増加1百万円によるものであります。

（負債）

当第３四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比較して191百万円減少し、3,338百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末と比較して、87百万円減少し、2,909百万円となりました。これは主に、未払金の減少344百万円、短期借入金の増加263百万円によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比較して、103百万円減少し、429百万円となりました。これは主に、長期借入金の減少55百万円によるものであります。

（純資産）

当第３四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比較して525百万円増加し、7,135百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益542百万円によるものであります。

その結果、自己資本比率は67.9％になりました。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの売上の大半を占めるアンチエイジング事業の事業環境や当第３四半期連結累計期間における業績の進捗状況等を勘案し、現時点で入手可能な情報や予測等に基づき、2026年７月期通期の連結業績予想を修正いたしました。詳細につきましては本日（2026年６月12日）に別途公表いたしました「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （2025年７月31日）	当第３四半期連結会計期間 （2026年４月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,655	4,841
売掛金	1,421	1,188
製品	1,002	1,214
原材料及び貯蔵品	457	580
その他	535	585
流動資産合計	8,073	8,411
固定資産		
有形固定資産	553	570
無形固定資産		
のれん	310	278
その他	603	611
無形固定資産合計	914	890
投資その他の資産		
その他	637	644
貸倒引当金	△37	△42
投資その他の資産合計	599	601
固定資産合計	2,067	2,063
資産合計	10,140	10,474
負債の部		
流動負債		
買掛金	203	330
短期借入金	405	668
１年内返済予定の長期借入金	208	155
１年内償還予定の社債	26	23
未払金	794	450
未払法人税等	126	323
賞与引当金	78	40
契約損失引当金	25	－
その他	1,128	916
流動負債合計	2,997	2,909
固定負債		
社債	17	－
長期借入金	451	395
資産除去債務	14	14
その他	50	18
固定負債合計	533	429
負債合計	3,530	3,338
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,351	50
資本剰余金	1,351	2,653
利益剰余金	3,876	4,419
自己株式	△1	△1
株主資本合計	6,578	7,121
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	19	△11
その他の包括利益累計額合計	19	△11
新株予約権	12	26
純資産合計	6,610	7,135
負債純資産合計	10,140	10,474

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2024年８月１日 至　2025年４月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2025年８月１日 至　2026年４月30日）
売上高	12,500	10,591
売上原価	2,659	2,379
売上総利益	9,840	8,211
販売費及び一般管理費	8,573	7,469
営業利益	1,266	742
営業外収益		
受取利息	3	8
保険解約返戻金	－	6
為替差益	－	86
雑収入	8	4
営業外収益合計	11	105
営業外費用		
支払利息	16	14
為替差損	47	－
雑損失	0	0
営業外費用合計	64	14
経常利益	1,214	833
特別利益		
固定資産売却益	－	2
投資有価証券売却益	20	－
新株予約権戻入益	－	1
特別利益合計	20	3
特別損失		
固定資産除却損	2	－
特別損失合計	2	－
税金等調整前四半期純利益	1,232	837
法人税等	426	294
過年度法人税等	43	－
四半期純利益	762	542
親会社株主に帰属する四半期純利益	762	542

（四半期連結包括利益計算書）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2024年８月１日 至　2025年４月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2025年８月１日 至　2026年４月30日）
四半期純利益	762	542
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	8	△31
その他の包括利益合計	8	△31
四半期包括利益	771	511
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	771	511

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第３四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

（セグメント情報等の注記）

Ⅰ　前第３四半期連結累計期間（自　2024年８月１日　至　2025年４月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益計算書計上額（注）
	アンチエイジング事業	リカバリー事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,257	2,242	12,500	－	12,500
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－
計	10,257	2,242	12,500	－	12,500
セグメント利益	1,099	167	1,266	－	1,266

（注）セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

Ⅱ　当第３四半期連結累計期間（自　2025年８月１日　至　2026年４月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益計算書計上額（注）
	アンチエイジング事業	リカバリー事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,063	2,527	10,591	－	10,591
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－
計	8,063	2,527	10,591	－	10,591
セグメント利益又は損失（△）	890	△148	742	－	742

（注）セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当社は、2025年10月29日開催の株主総会の決議に基づき、2025年12月１日付で減資の効力が発生いたしました。これにより、資本金が1,301百万円減少し、この減少額全額をその他資本剰余金へ振り替えております。

これらの結果、当第３四半期会計期間末において、資本金が50百万円、資本剰余金が2,653百万円となっております。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第３四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第３四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれん償却額は、次のとおりであります。

	前第３四半期連結累計期間（自　2024年８月１日　至　2025年４月30日）	当第３四半期連結累計期間（自　2025年８月１日　至　2026年４月30日）
減価償却費	188百万円	192百万円
のれん償却額	31	31